

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	16
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	4
5．人材の育成と支援	3
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1．一人ひとりの把握	2
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の	2
見直し	
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1．その人らしい暮らしの支援	13
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	41

訪問調査日	平成 21年 9月 15日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 15時30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム サンライフ中野山 ————— (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>山崎 由美</u>
	氏名 <u>星野 久美子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>西本 円</u> ヒアリングを行った職員数 (3)人

項目番号について

外部評価は41項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

評価確定日 平成21年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1590100408
法人名	社会福祉法人 徳栄福祉会
事業所名	グループホーム サンライフ中野山
所在地 (電話番号)	新潟市東区中野山4丁目13番1号 (電話) 025-277-4130
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成21年9月15日

【情報提供票より】(21年8月22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算 8人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (180,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 (3年償却)
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(8月22日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 81 歳	最低 71 歳	最高 89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	とやの中央病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年11月、様々な介護サービスを展開する法人が開所している。新潟バイパスに近く利便性が良く、大通りより少し入ったところに位置し静かな環境である。近隣の同法人ケアハウス・居宅介護支援事業所・地域包括支援センターと連携してサービスを提供している。平屋建ての広く開放的な建物で、顔馴染みの職員が利用者の思いや出来ることを最大限に引き出し、その人らしい生活を支援している。「ところが動く」瞬間を利用者と重ねていくことを大切に、職員・利用者ともに穏やかで笑顔が絶えないゆったり過ごせる「第二の我が家」となることを目標に研鑽している事業所である。2年目となり地域との関わりを課題として、熱意を持って取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回の外部評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者より評価の意義を説明し、全職員に自己評価票を記入してもらい意見をまとめている。日頃の業務やケアの振り返りの機会と捉え、より良いグループホームを目指し、今後全職員で具体的な改善に取り組むことを検討している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	2ヶ月に1回、利用者・家族を含めたメンバーで開催している。業務内容・行事だけでなくホーム内で起きた課題等について話し、意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	意見箱を設置し意見を表せる機会としている。苦情・ヒヤリハット報告書を活用し、会議で検討したり、法人内では月1回、苦情対応委員会を設け、意見を運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域コミュニティー委員や民生委員より地域行事の誘いを受け参加している。また、小学校との交流や民生委員とお茶のみ等、更に交流を図れるように努めている。災害時の連携を含め、気軽に行き来でき地域の一人としての交流を模索している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時に施設長・管理者で考え地域の中で地域住民として生活する等5つの項目を掲げ、グループホーム本来の姿に少しでも近づけるようにという思いで理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目に付く所に掲示するのは勿論、内部研修や会議にて理念やグループホームの姿・意義について話し合い、どのように業務やケアに繋げていけるか全職員で検討し、実践に向け取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念や日々の取り組みをホーム内に掲示したり、入居時、運営推進会議や地区グループホームにもパンフレットや広報誌を配布し伝えている。管理者は理解してもらえる機会が少なく今後の課題と感じている。		ホーム行事等多様な機会でも地域で暮らすことを大切さや事業所の果たそうとしていることを地域全体に浸透できるよう取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域コミュニティー委員や民生委員より地域行事の誘いを受け参加している。小学校との交流や民生委員とお茶のみ等、更に交流を図れるように努めている。気軽に行き来でき地域の一員としての交流を模索している。		地域住民としてのグループホームの役割や、『地域の一員として』という事業所の役割・活動を理解してもらう為にも、ホーム行事、お茶の間、介護教室等さらに交流を深める取り組みを期待したい。
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より評価の意義を説明し、全職員に自己評価票を記入してもらい意見をまとめている。日頃の業務やケアの振り返りの機会と捉え、より良いグループホームを目指し、意識を高め全職員で具体的な改善に取り組むことを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者、家族を含めたメンバーで開催している。業務内容・行事だけでなくホーム内で起きた課題等について話し、意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人が地区の地域包括支援センター事業を受託していることもあり、随時相談し助言を受けている。3ヶ月に1回、地域ケア会議にて区役所・保健センター職員と接する機会をつくる等、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各機関と連携し防止に取り組んでいる。ホーム内では「身体拘束」と合わせて研修、会議で話し合い、日頃のケアで見過ごされることがないように全職員で注意を払い防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付の際に、暮らしぶりや健康状態の手紙、行事予定、預り金報告書、3ヶ月1回発行の広報誌等で伝えている。面会の家族が多く、その際や電話でも個々にあわせた報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見を表せる機会としている。苦情・ヒヤリハット報告書を活用し、会議で検討したり、法人内では月1回、苦情対応委員会を設け、意見を運営に反映させている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を、議題を全職員から出してもらい開催している。特に年度末には業務等を振り返り、次年度の目標を検討している。個々に面談を実施し、意向調査を実施する予定もあり、常により良いグループホームに向けて取り組む体制を整備し、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は馴染み職員による支援が大切であると考え、離職を最小限に抑える努力をし、開所以来異動・離職はみられていない。利用者の変化に伴い、勤務や業務内容の調整、引継ぎの徹底、連絡ノート活用等利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	事業所独自の各種マニュアルを整備している。基本介護(事故防止)に関しては職員個々に配布し、会議や勉強会にて周知・徹底に努めている。新型インフルエンザの対応について取り入れる等、適宜見直しが行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者はスキルアップや資格取得の研修に積極的に参加するよう声かけしている。法人で研修委員があり、ホーム内研修や伝達研修等年間計画を立て、研修の機会を設けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議やケアマネージャーの事例検討会、勉強会等で交流している。実習研修を受け入れ、お互いに学び刺激しあえる良い経験としており、サービスの質の向上に取り組んでいる。今後は交換研修等検討中である。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者・管理者はストレス軽減は利用者への良い対応に繋がると考え取り組んでいる。職員会議に出席し悩みやストレスを一緒に検討したり、個々に面談、休憩室・時間の確保等環境づくりに配慮しており、良い関係ができています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族と相談し、疑問、不安、現在の生活での課題等受けとめ、事前見学や体験を勧め、職員や他利用者、場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	笹団子作りや生活の知恵、人間のあり方等今までの生活で培われてきた多くのことを学んでいる。人生の大先輩であり、一個人として尊重し、利用者や職員がともに心を動かされるような時間を大切に支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や外出等、一緒に過ごす時間が持てるよう声かけしている。面会時や電話で密に情報交換等行い、本人と家族の関係や家族の思いを理解し、一緒に支える関係を築いている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で周りを気遣い思いを抑えている方もおり、身体面・心の動きに注意し、一人ひとりの思いや意向に気付けるよう職員間で意識し合い把握に努めている。利用者・職員の合同会議や苦情・ヒヤリハットを活用し、本人本位に検討している。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者より、精神面・身体面・できること等、これまでの暮らしの総合的な把握に努めている。担当職員を中心に申し送り、連絡ノート、会議にて情報の共有を行い、ケアに繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャー・計画作成担当者である管理者が本人・家族の意向を把握し、担当職員のアセスメントやカンファレンスから介護計画を作成している。計画に沿った記録ができるように様式等検討しているところである。		本人が暮らしていくための個別な介護計画になるように、生活記録を検討し、日々の記録が反映された計画作成が望ましい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリング・評価を行い、3ヶ月をめやすに見直ししている。日々の生活記録を詳細に記入し、連絡ノートを活用し話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じ、外出・受診支援等、臨機応変に対応している。今後、地域ニーズを把握し、通所等法人で包括的な支援も検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医に受診の方が殆どである。新型インフルエンザに対応し毎日2回バイタルチェックを実施、必要時、緊急時に同行受診し、同法人の看護師と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。訪問歯科検診を受けている方もいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、本人・家族の意向を確認し、ホームでは医療処置対応ができないこと等を説明している。現在介護度が低いため重症の方はいないが、管理者は利用者の状況により、今後重度化・終末期に向けた体制の確立が必要と感じている。		重度化・終末期に向けて、早い段階から本人・家族・関係者と方針を共有していけるよう、指針を作成し対応できる範囲を明確化して、体制づくりに取り組むことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけないようさりげない言葉かけや対応に努めている。記録等個人情報は鍵のかかる所に保管し、記入は事務所や休憩室等目に触れないよう配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望やペースを大切に、否定や強制せずに、一人ひとりの力に合わせ選択できるように、職員間でその人らしい暮らしの考えを共有しながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活の大きな楽しみと自立支援の場と考え、食材の買い物、食事の準備や配膳、後片付け等一緒に行っている。毎日の手作りの食事・おやつは野菜が豊富で美味しいと好評であり、コレステロール値が改善した例もある。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表により排泄パターンを把握している。排泄場面は一番触れられたくない部分のため、利用者の心理を推測したさりげない対応に心がけ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員と1対1で過ごす大切な時間として楽しみにしている方もおり、希望やタイミングに合わせて、ほぼ毎日の入浴を支援している。拒否の方には無理強いせず、職員や時間を調整し対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付け、洗濯たたみ、体操の講師、園芸等、本人の生活歴や得意な分野を活かした役割があり、張り合いや喜びのある日々が送れるように能力に合わせ自立支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回利用者全員と家族に参加を声かけし、外出や外食を実施している。その日の気分や希望にそって、買い物や散歩等日常的な外出は勿論、担当職員と外出する「デートの日」を設け一人ひとりに合わせた外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的・精神的弊害について、全職員が共通認識を持ち、会議や申し送りにて、自覚しない拘束が行われていないか振り返り、日々のケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全職員が理解し、玄関にスティックベルを設置する等工夫し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内では事故防止委員会が設置されており、月1回検討を行っている。ホームでは苦情ヒヤリハット報告書にて速やかに対応するとともに、3週間後担当職員が中心に評価を行い、会議や勉強会にて学び事故防止に取り組んでいる。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	管理者はMFA(メディックファーストエイド)救急法の指導者講習を受講しており、業者の協力もあり、利用者とともにAEDや消火器の使い方の訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内では防災委員会が設置されており、備蓄・災害セットを準備し、小規模な火災訓練や防火訓練を実施して備えている。定期的避難訓練を含め、地域と連携した災害対策を思案している。		地域住民や消防署との連携を図りながら訓練を定期的実施し、災害時に确实・的確な対応ができるよう、地域住民にも呼びかけ協力を得て、災害対策に取り組む事が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や季節、行事に合わせて職員がメニュー作りをしている。法人内管理栄養士より栄養バランス・調理法の助言を受けている。食事摂取量や状態を把握し、一人ひとりにあわせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者意見より、玄関をプランターの花で飾ったり、木目調の屋内は花や貼り絵で季節感のある明るく温かな雰囲気である。フロアには和室スペースが設置され、思い思いに居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、写真や手作りの物、使い慣れたものや好みのものを活かして、家具や寝具等自由に設置してもらい、本人らしい居室づくりを支援している。		